



支援者の皆様、必見！！

# あなたの気持ちを知りたい

～家庭で、家族から学ぶ～

## 「ご家族の関わりについてのアンケート」調査結果について

福祉・医療・教育関係者など、あらゆる立場で日ごろから障がいのある方への支援に携わる人の意思決定支援に関する啓発を行い、地域における本人への意思決定を尊重した支援の質の向上を目指すことを目的とし、藤沢市障がい者総合支援協議会では平成29年度から地域における本人の意思決定を尊重した支援の充実に向けて、協議及び事例の収集を行い、「本人の意思決定を尊重した支援」に関するアンケート及び実践事例報告書の作成をいたしました。

実践事例報告書を作成するにあたり、権利擁護部会では、「本人の意思決定を尊重した支援」の前提として、「自分のことは自分で決める権利がある」ということをご本人が理解し、その権利を当然のこととして行使していることが大切であると考え、その観点から独自のアンケートを実施し、考察を行ないました。

家庭での視点を含めるため、アンケート調査はご家族の皆様にご協力いただき、【ご本人の普段からの意思の伝え方】、

【ご本人の好きなものや好きなこと、苦手なものや嫌なこと】、

【好きなものや好きなこと、苦手なものや嫌なことを知ったきっかけ】、

【ご本人の希望や気持ちを知るために工夫したこと】の4項目について回答していただきました。本紙では、調査結果の一部をご紹介します。



## ご本人の普段からの意思の伝え方

言葉だけではなく、ジェスチャーなどの身振り・実物・直接動作や発声など、一人ひとりの表現方法で、ご本人が意思を伝えようとしている姿、それをくみ取っているご家族の姿が浮かび上がってくる結果となりました。

（「本人の意思決定を尊重した支援」に関するアンケート及び実践事例報告書 P55 引用）



## 好きなものや好きなこと、苦手なものや嫌なことを知ったきっかけ

### 好きなこと・好きなものを知ったきっかけ 項目別

表情	表情が嬉しそう（※） （ニコニコ笑顔・気分よさげ・足をばたつかせる・ほおずり）  （※）障がい特性や個人差、状況によっては当てはまらないことがあります。
行動	覚えて自分で（率先して）やる、獲得する
意思伝達	言う（訴えてくる）

### 苦手・嫌なことを知ったきっかけ 項目別

表情	困った・不安そう・不快そう・震える
行動	逃げる（腰が引ける・近寄らない・隠れる）
意思伝達	言う（「いやだ」「こわい」、確認が増える）、訴える



ご本人の好きなものや好きなことを知ったきっかけについては、表情やしぐさから感じ取っているという回答が多数でした。暮らしを共にすることで、行動面から知る、わかる、気づく、という回答も上位にあがっていました。家族がご本人のことを、より知ろう、分かろう、とする姿勢があるからこそ、ご本人の好きなことに気づく、ということだと言えます。

苦手なものや嫌なことを知ったきっかけについては、表情・行動・意思伝達の項目分類では、行動面が突出していました。本人からの強い意思表示を示す行動が上位にあり、本人が嫌なことに対する断固とした拒否の意思を示していることがわかります。また、「発作・自傷・興奮・パニック・不穏・体調不良」等の不適応な行動をされると回答された方も多く、“ご本人にとって嫌な体験”をすることが、“とても辛い体験につながってしまう”ということがわかります。

ご本人がご家族に伝えようとしたことを意思伝達の項目に分類し、好きなことと苦手なことを知った件数を比較すると、嫌いなことのほうが伝えにくい、分かりにくい、気づきにくいことが推測できます。

（「本人の意思決定を尊重した支援」に関するアンケート及び実践事例報告書 P59-60引用）

## ご本人の好きなものや好きなこと、苦手なものや嫌なこと

### 好きなものや好きなことベスト3

1位	音楽鑑賞
2位	ドラマ・アニメ・映像を見る
3位	食べること

### 苦手なものや嫌いなものワースト3

1位	大きな音、急な高い音、怒鳴り声
2位	骨付きの魚、果物、納豆、とろろ等
3位	予想外のこと、 思い通りにならないこと、災害



好きなものや好きなことの項目では、食べ物や趣味など多岐にわたっており、ご家族だからこそなしうる、日常生活の中でのきめ細かいコミュニケーションが表れています。

苦手なものや嫌なことの項目では、何気ない生活の流れの中での変化への対応や、感覚過敏などによるご本人たちの生き辛さがうかがえる調査結果となっているのではないのでしょうか。

ご本人たちにとっても人間関係や、人とのコミュニケーションに関する事柄が、暮らしの中で重要な問題になっていることがわかります。また、穏やかに暮らしたいという、人（住民）として誰もが願う気持ちは障がいや病気の有無に関わらず同じなのだということが改めて確認できました。

（「本人の意思決定を尊重した支援」に関するアンケート及び実践事例報告書 P56-58 引用）

## ご本人の希望や気持ちを知るために工夫したこと

ご本人の希望や気持ちを知るために行う工夫として、ご本人と関わりながら、ご本人の希望や気持ちを汲み取っている、気づいていることがわかります。

「声掛けをする、普段から会話を多くする（※）」、「反応が出るまで時間がかかっても、とにかく辛抱強く待った」、「反応にはすぐ対応するようにし、表出の気持ちを損なわないようにした」等、本人の意思表出・意思実現体験を重ねる工夫がされていることがわかります。

本人が選択できる（しやすく）するための支援として、本人の理解度や経験の有無などにより、きめ細やかなご本人に即した対応が、日常の暮らしの中でなされていることがわかります。

（「本人の意思決定を尊重した支援」に関するアンケート及び実践事例報告書 P61-62 引用）

（※）障がい特性や個人差によりご本人にとって負担となる場合があります。

### 気持ちを知るために工夫したこと 項目別ベスト1

#### コミュニケーションツールの使用編

・絵カードを用意、写真でカードを作成した。

#### 本人が選択できるようにする（しやすくする）ための支援編

・選択肢を複数用意した。

#### 日常生活の中で本人の意思をくみ取る工夫編

・声をかけ表情・声・体の様子、反応を観た、観察した。



## ご家族の関わりから支援者が学ぶべき姿勢とは

### (アンケート調査結果から見えてきたこと)

ご家族は日常の暮らしの中で、ご本人と関わりながら時間を共に過ごし、ご本人へ働きかけて(ご家族ならではのコミュニケーション)、ご本人の表情やしぐさ、行動などから、ご本人の希望や気持ちを、汲み取っています。その希望や気持ちに添えていくことにより、願いが叶う成功体験や自己肯定感を高めることを積み重ねられていき、お互い(家族間)の信頼関係が深まり、ご本人からの更なる意思表示の意欲が高まってくるのが分かりました。

また、ご記入いただいた多くのご家族(ご家庭)の中で、ご本人に応じて(一人ひとりに合った)、「選択肢を用意する、見通しを立てる、カード・写真を提示する」等の工夫をされています。ご家族(ご家庭)の工夫は日常的に関わる具体的な内容であり、我々支援者にとっても大変参考になることが多く、改めて、ご本人に対する支援はご本人に合ったオーダーメイドの支援でなくてはならないということを再確認する機会となりました。

支援者の基本は「ご本人を知る」ことにつきます。ご家庭での関わりを知ることで、新しいご本人を知ることができます。

支援者は、ご本人を中心にご家族と情報を共有し、より多面的にご本人を知ることで、ご本人の可能性や支援の可能性を拡げ、ご本人からの意思表示を促し意思決定、意思実現へと、つなげていくことが求められています。

#### (編集後記)

今回、ご紹介させていただいたのは、実践事例報告書の一部のみです。本報告書では、権利擁護部会で事業所や病院にヒアリングを実施させていただいた、意思決定支援に関する具体的な取り組み内容等の調査結果なども掲載させていただいております。ご興味のある方は、お問い合わせいただき支援に活かしていただければと思います。

#### 引用元

『「本人の意思決定を尊重した支援」に関するアンケート及び実践事例報告書』

藤沢市ホームページ <http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/>から  
ダウンロード可能です。

#### 【発行者】

藤沢市役所 障がい福祉課  
藤沢市障がい者総合支援協議会 権利擁護部会 担当  
TEL：0466-50-3528 FAX：0466-25-7822  
挿絵協力： めりの様 (「えにしんぐ」所属)  
発行年月日：2020年(令和2年)3月1日

藤沢市障がい者総合支援協議会  
「本人の意思決定を尊重した支援」に関する  
アンケート及び実践事例報告書  
2019年(平成31年)3月